

白藍塾オリジナル

2012入試小論文分析&解答のヒント

2012年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・環境情報学部

例年通り、複数の資料が出題されているが、各資料は短めで、量的にはそれほど多くなく、内容的にも読みやすい。テーマも設問も、昨年度に比べるとかなり難易度が低いので、取り組みやすいと感じる受験生も多いだろう。

資料1は、デザイナー秋岡芳夫によるもの。わかりやすい文章だが、最後の段落で論点が整理されているので、そこだけを読んでも理解できる（さらに、この文章の要旨は資料4の中でも紹介されている）。画一的な大量生産方式のために、デザイナーがものづくりの全体にかかわれなくなっていること、またデザインにも様々な限界が課せられている状況が説明されている。

資料2は、アップル社の iPod の新しさについて分析した文章。内容を補足しつつまとめると、「アップルは、iPod を、デジタル携帯プレーヤーとして孤立した商品ではなく、サービスの一部として扱った。iPod によって、顧客が好みの楽曲を探してコンピュータにダウンロードし、それを携帯プレーヤーに取り込んで、好みの場所で音楽を聴く、という一連の体験が可能になる。つまり、アップルは、単に一商品ではなく、その商品を含むシステム全体を新しいサービスとしてデザインするという発想に立っている」となるだろう。

資料3では、企業のもので、市場のニーズに応えるためにチームによる分業を強いられるのに対して、個人が自分の欲しい物をデザインし、ものづくりのすべてのプロセスにかかわる例が紹介されている。

資料4では、資料1で秋岡芳夫の挙げた問題点の多くが、現在では解消されつつあることが説明されている。とくにインターネットの発達によって、すべての人が自分のためにデザインし、ものづくりをする可能性が開けてきていることが述べられている。

問題1は、やや意図のつかみにくい問題だが、次の問題2との関連で考えるとわかりやすい。簡単に言えば、問題1である生活用品のデザイン上の問題点を説明して、問題2でそれを改良するアイデアを示せばよいわけだ。

一種の説明問題だが、字数が多いので、四部構成を応用するほうが書きやすいだろう。

第一部で、取り上げる生活用品とその特徴を簡単に示す。課題のテーマから考えると、その製品のデザイン面をよく考えて示す必要がある。次に、第二部で、それを通じてどのような体験をしたかを書く。「素晴らしい体験でもがっかりした体験でもかまわない」とあるが、問題2で改良案か新製品を提案しなければならないことを考えると、ここではがっかりした体験を書くほうがいいだろう。そして第三部で、なぜそのような体験が得られたのかを説明する。これはもちろん、その製品のデザインの特徴とからめて説明する必要がある。「その製品にはこういうデザイン面の不備があったので、このようにながっかりした」というように説明するわけだ。

問題2は、問題1で挙げた製品の改良案か、それに代わる新製品を提案する問題。近年の環境情報でよく出題される、プレゼンテーション型の問題だ。

第一部で、自分のアイデアを簡単に示し、第二部で、「確かに、自分のアイデアにはこういう問題点（限界）もある。しかし、〜」というように問題点も示した上で、第三部で、それが以前の製品の問題点をどう克服しているのかを具体的に説明する。もちろん、単に「自分にとって便利」というだけでなく、そのアイデアの現代性や社会的意義も示してほしい。こうすれば、うまくまとまるだろう。

「ハードウェア、ソフトウェアの別を問いません」とあるので、手に取れるような物でなくても、コンピュータのアプリケーションなどを例に挙げてよい。ただ、これはコンピュータに詳しくないと難しいだろう。冷蔵庫やテレビなどの家電製品が最も考えやすいと思うが、それだと多くの受験生が同じようなアイデアを書く恐れがある。とはいえ、例がありきたりでもプレゼンの仕方に説得力があれば、十分合格ラインに達するはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179）

<http://www.hakuranjuku.co.jp>